

今後の水稻の管理について

令和3年7月15日
加須農林振興センター

1 今年の生育状況

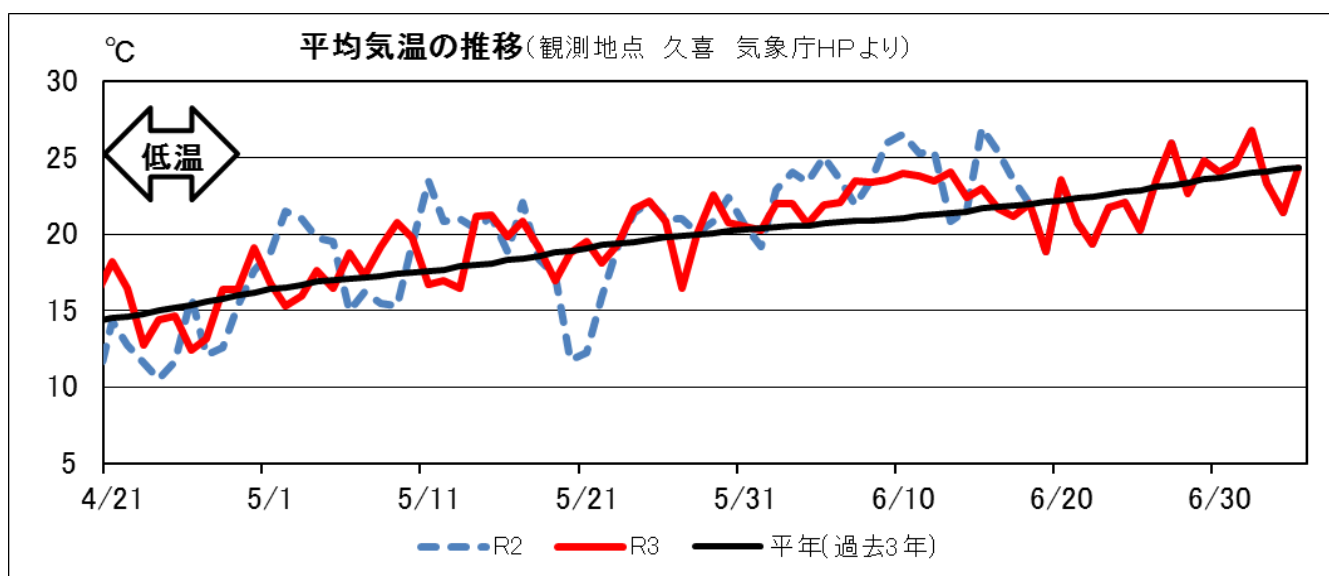
今年の早植及び普通栽培の水稻の生育は、概ね平年並みとなっています。

本年は、一部の苗で苗立枯病が見られましたが全般に良好でした。5月中・下旬が日照不足であり、軟弱気味であったものの移植後の植傷みも少なく活着は良好でした。

6月上中旬にかけて気温が高く推移したため、元肥に一発肥料を使用している場合でも、中干し後入水して葉色が戻らないほ場は肥切れしています。

6月25日発表の気象庁3か月予報では、7月から9月の平均気温は平年並みから高い確率40%、降水量は7月と9月は平年並みからやや少ないですが8月は平年並～やや多い予報となっており、高温への対策が必要です。

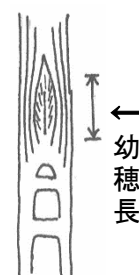
生育状況をよく確認して、適時適切な管理を行い、良品多収を目指しましょう。



2 穂肥の量と時期の診断方法

(1) 幼穂長を測る ～穂肥の時期を調べる～

平均的な生育の株の中で一番草丈の高い茎を根元から抜き取り、ナイフ等で割るように切り、幼穂の長さを測ります。

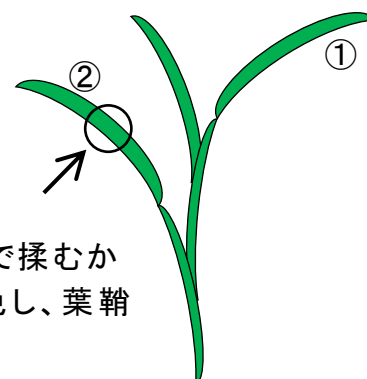


(2) 葉色を調べる ～稲体の栄養状況を調べる～

葉色板を使って水稻の葉色を確認します。

○単葉: 株の中で、完全展開している上から2枚目の葉の中央部を葉色板から1cmくらい浮かせて葉色を見ます。

○群落: ほ場の中で葉色板を稲と同じ高さに置き、太陽を背にして5～7m程度離れて葉色を見ます。群落は通常、単葉に比べ 0.5程度薄くなります。



(3) ヨードカリ反応を調べる ～稲体の栄養状況を調べる～

完全に展開している上から2枚目の葉鞘を丁寧にむき、手で揉むか木づちでたたいて組織をつぶします。ヨードカリ液に入れて染色し、葉鞘の染色割合を確認します。

(参考)幼穂長と出穂前日数

幼穂長	出穂前日数	外 形
0.2mm	30日	穂首分化期
1.0mm	26日	
1.5mm	24日	幼穂形成期
1.8mm	23日	
2.0mm	20日	
8~15mm	18日	止葉出始め
8cm	12日	穂ばらみ期
19cm	6日	

(参考)「彩のかがやき」の穂肥時期の目安

(平年並の生育の場合)

移植時期	穂肥施用時期	出穂時期
5月20日	7月19日頃	8月10~12日
5月25日	7月21日頃	8月12~14日
6月 1日	7月22日頃	8月15~17日
6月 5日	7月24日頃	8月17~19日
6月10日	7月26日頃	8月19~21日
6月15日	7月28日頃	8月21~23日
6月20日	7月30日頃	8月23~25日

3 穂肥の施用

もみ数の確保による収量の向上や、稲体の活性を維持することによる登熟の改善(白未熟粒発生などの高温障害防止)のため、穂肥を適切に行います。

施用の時期が早めだともみ数が増えやすい一方、倒伏しやすくなり、遅めだと登熟の改善に効果がありますが、遅すぎると食味が低下するので注意が必要です。

<基肥+追肥体系>

- ①高温等により中干終了後の葉色が薄い + その後も高温が予想される場合
→ 窒素成分で2kg/10a 施用(「コシヒカリ」は1~2kg/10a)
- ②穂肥施用時期に葉色が濃い → 施肥時期を遅らせる か 施用量を減らす
// 極端に濃い → 施用しない

<一発施肥体系>

- 穂肥施用時期に葉色が薄い + その後も高温が予想される場合
→ 肥効パターンを考慮 → 必要に応じて追肥

<基肥+追肥体系・一発施肥体系とも>

- 出穂 10 日前(幼穂長 10cm)に葉色が薄くなった場合
→ 窒素成分で2kg/10a 施用(「コシヒカリ」は1kg/10a)

◎葉色、幼穂長をしっかりと確認し、適切な穂肥を施用しましょう。

表 穂肥施用の時期と量の目安

品種名	作型等	施用時期 (出穂前日数)	幼穂長	葉色の目安 (単葉)	ヨードカリ 反応	施用窒素 成分量の目安
コシヒカリ	4月~ 5月植	18日	8~15mm	3.5~4.0	60%以上	2kg/10a 以内
彩のきずな	5月植	25~23日	1~1.8mm	4.0	50%以上	3kg/10a
	6月植	25日	1mm			2kg/10a
彩のかがやき	5月植	23~22日	1.8~2mm	4.0		3kg/10a
	6月植	25日	1mm			2kg/10a

4 水管理

○中干し

- ・(目的)無効分げつを抑制 →(効果)養分のバランスを改善
- ・(目的)土壤に酸素を供給 →(効果)根の活性向上
- ・有効茎数を確保したら、田面に小ヒビが入る程度に行う(強すぎ注意！)
(彩のかがやき:田植 25～30 日後頃、60 株/坪植の場合は、有効茎数が 20 本/株)

○出穂前7日～出穂後7日は深水

- ・受精のため水分を最も必要な時期

○出穂前後以外は間断かん水

- ・湛水と落水を3～4日ごとに繰り返す → 水を供給しながら根に酸素を供給
→ 根の活性を維持

○完全落水は出穂 30 日後以降

- ・出穂後 30 日間は籾にデンプンが蓄積
- ・土壤水分を維持 → 玄米の充実を向上

◎台風による強風・大雨、極端な低温・高温が予想される場合 → 深水管理